

## 「時代をつなぐ写真」展より

H17.11.17 西山市朗

讃岐の人々と写真の出会い その中に咸臨丸でサンフランシスコに渡り写真を撮影した(1860) 向井仁助と、幕府オランダ留学生の古川庄八と山下岩吉がオランダで撮影したものの(山下岩吉が残っていた写真)が展示されていた。

三人は塩飽の広島・瀬居島・高見島の人であった。

山下岩吉の写真は晩年に日本で撮影したものであるが、当然ながらオランダで撮影した写真も残っている。

山下が残した写真の中には、榎本武揚・西 周のもの、咸臨丸でサンフランシスコに渡った赤松大三郎則良や肥田浜五郎も、肥田と共にオランダに渡った布施鉦吉郎(1865)の写真もあった。

パリの万国博覧会(1867)に派遣された徳川昭武(将軍慶喜の実弟)も赤松・林・伊藤らにオランダを案内されている。

「時代をつなぐ写真」展には、この兄弟 徳川慶喜と昭武の写真も展示されていた。

山下岩吉は晩年、高見島に帰って余生を過ごしている。島で米俵を積んでいるのは、村長さんの家とこの岩吉の家だといわれていた。そして小高い島の大聖寺の墓地に山下岩吉の石塔墓が建てられている。岩吉の家に慶喜の結婚祝いの杯があったという。

塩飽の人の写真として、忘れられないのが佐柳高次(前田常三郎)の写真である。坂本龍馬と付き合いのあった人物である。彼も晩年は故郷の佐柳島に帰っている。咸臨丸で太平洋を横断したときの乗組員であり、彼と共に海を渡った同島出身の平田富蔵はサンフランシスコで亡くなっており、アメリカの地と故郷の地・佐柳島 本浦の乗蓮寺の墓地に彼の墓と並んで和去唐卒と刻んだ富蔵の墓がある。

話は変わるが、ときは移り、その写真展で初めて目にした昭和29年の「ブラジル移民見送り」の写真と、昭和34年の「島の花嫁」の写真、それは私の生まれ育った塩飽・高見島のものだった。テレビで放送されたときは、島の花嫁ということで映し出されていたが写真展でじっくり見ていると見覚えのある顔があった。戦後の昭和25年生まれの私にとっては幼・少年のころを思い出させる写真でもあった。

失われた、また失われゆく風景、この激動の時代にあって変わりゆくくらし、写真はそれらを映し出している。すでに忘れてしまっていたこともあり、目にしたこともないものもそこにはあった。

時は流れ、潮も流れて・・・・・・浦島太郎ではないが随分と変わってしまったものである。父とふたりで船を走らせた少年時代のことがこの瀬戸内海での懐かしい思い出であり光景である。

残念ながら、それは写真には残っていない。



昨年はお世話になりました。  
今年もよろしくお願ひします。  
また高見島においでください。

# 賀正



# 高見島出身で船舶技術の先達

高見中の  
西山校長

## 山下岩吉の研究 小冊子に



オランダ留学時の山下岩吉氏

幕末の激動期、ヨーロッパの先進文化や科学・技術を学ばせようと、徳川幕府がオランダに派遣した留学生の一人で、日本の船舶技術の先駆者である山下岩吉氏が高見島(仲多度郡多度津町)の出身であることを高見中学校長の西山保さん(高見)が突きとめ、その生涯をつづつた小冊子をまとめた。同町文化財保護協会会報として発行され、題して「山下岩吉の研究」(高見)の幕府オランダ留学生(高見島出身)「B5判、十九頁」。「過疎化に悩む島民や子どもらに島の誇りを伝える教材の一助に」と願う西山校長の力作である。

幕府は文久二年(一八六二)造船技術や洋式海軍の知識を習得させるため、全国から選んだ十五人の留学生をオランダへ派遣した。その一員に一等水夫の山下岩吉氏(当時二十一歳)や瀬居島出身の水夫小頭、古川庄八(同二十八歳)が選ばれた。中には榎本武揚や西周助らも含まれていた。

西山さんのまとめでは、一行は文久二年六月、咸臨丸(かんりん丸)で江戸・品川沖を出帆、乗組員の多かった丸亀沖の塩飽本島に停泊して、親類縁者らと別れを告げたあと、同九月、オランダ船で長崎を出港。インドネシアの海峡で乗船の沈没事故に遭うなどの不運を越えて、アフリカ南端の喜望峯回りで大西洋へ。セントヘレナ島のナポレオンの遺跡を訪ねた後、翌年四月、三百二十四日の大航海を終えてオランダのプロウエルスハーフェン港に到着した。

オランダで一行は、日本語教授らの指導で語学や専門知識を学習。山下氏と古川は航海訓練学校で学び、軍艦に乗り組んで南米から喜望峯、紅海方面にかけての訓練航海にも参加した。幕府がオランダに注文した開陽丸(二五九〇排水、戊辰はしん)戦争の際、北海道近海で沈没の遭難には山下氏らもたずさわり、開陽丸は慶応二年(一八六六)十月、山下氏ら留学生を含む九人の日本人も乗って日本へ向けて出発。翌年五月、往路の半分足らずの百五十日に横濱に入港した。その後山下氏は明治新政府が設けた横須賀造船所の海軍教授所教授、製帆工場長などを歴任、高見島で余生を過ごし、大正五



### 展覧会

第2回大川武一郎個展 25日まで、高松市丸亀町の高武画廊。木田郡牟礼町在住の新洋画会員。風景、裸婦、静物などサムホールから50号までの油彩を中心に水彩2点を含む31点。

第5回池坊展 30-31日(前期)と4月1-2日(後期)、池坊公園内の高松市立美術館。池坊興連支部主催で入場料三百円。

大日年写真展 4月1-8日、丸亀市大手町のダイエー丸亀店「随喜ギャラリー」。全日写真会員の大口さんが「峠慕情」讀



山下岩吉氏の墓前に立つ西山校長—高見島で

いたいとまとめた」と話している。でもあり、交友録でもある」と、あと書きにある自叙伝。B6判、二百五十五頁、非売品。「一番川の歴史」第4号 県史編さん室編纂。空海入定千五百十年遠忌特集「秋原寺蔵「急就草」について(近石泰秋)▽空海の出生とその環境(山本忠司)▽大師信仰以前(武田明)のほか、論文、資料紹介、研究余録など。A5判、九十頁。歌集「散りてまた咲く」高松市常磐町一六二〇、協須美さんの第一歌集。不識書院(東京)発行。一千五百円。「花もよし散るもまたよし」裸木よし生のいとまのまじりきかな。俳誌「屋島」3月号 真鍋雨花「山のバス窓より大根賣ひにけり」。高松市松並町七三二一、三、屋島発行所。五百五十円。川柳「たかせ」3月号 秋山治雄「お預けを食った挨拶長過ぎる」。三豊郡高瀬町比地二六〇、白井水仙方、たかせ川柳

「陀羅尼の世界」徳島県出身の氏家寛勝・高野山大学教授著。密教の核心である曼陀羅(まんだら)と並ぶ陀羅尼(だらに)の世界を説く。東方出版(東京)発行。二、三〇〇円。

一宮町三八二六、笠井善かた草発行所。五百円。季刊詩誌「湖」9号 高松市藤塚町二一九二、明石旅天方湖の会。二百円。「夫留佐土」第22号 調査研究報告、紀行、随想など。高松市教委文化振興課内、ふるさと研究会発行。三百円。川柳「新樹」3月号 高松市郷東町五八六二、大谷麦二方、新樹川柳会。

### メモ

吉川英治文化賞受賞記念出版祝賀会 27日午前11時から高松市木太町二丁目、高松国際ホテル議事室の間。坂出青雲館の吉村静枝館長が吉川英治文化賞の受賞を記念して出版した自伝「荒野は涙の皮袋」と、喜寿を迎えるのを祝って開く。

### 同人誌

俳誌「屋島」3月号 真鍋雨花「山のバス窓より大根賣ひにけり」。高松市松並町七三二一、三、屋島発行所。五百五十円。川柳「たかせ」3月号 秋山治雄「お預けを食った挨拶長過ぎる」。三豊郡高瀬町比地二六〇、白井水仙方、たかせ川柳

### 公演

NEELONコンサート 26日午後6時から坂出市民ホール。一、二部(十三テコプログラム)

### 新刊

弘法大師「空海百話」大川郡志度町、長福寺の佐伯泉澄住職著。四十五年高野山大師教本部発行の教報などに掲載した「私の好きな言葉」のうち百句を選んで解説。弘法大師入定千五百十年遠忌記念で、東方出版社(大阪)発行。新書判、二百五十六頁、九百八十円。「陀羅尼の世界」徳島県出身の氏家寛勝・高野山大学教授著。密教の核心である曼陀羅(まんだら)と並ぶ陀羅尼(だらに)の世界を説く。東方出版(東京)発行。二、三〇〇円。



一 德者本也 財者末也 外本而末 則民散而國亡  
一 夫君子之德 華也 木之實也 華落而實不實 則木枯  
一 故君子必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用  
一 德者本也 財者末也 外本而末 則民散而國亡  
一 夫君子之德 華也 木之實也 華落而實不實 則木枯  
一 故君子必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用  
一 德者本也 財者末也 外本而末 則民散而國亡  
一 夫君子之德 華也 木之實也 華落而實不實 則木枯  
一 故君子必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用

一 德者本也 財者末也 外本而末 則民散而國亡  
一 夫君子之德 華也 木之實也 華落而實不實 則木枯  
一 故君子必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用  
一 德者本也 財者末也 外本而末 則民散而國亡  
一 夫君子之德 華也 木之實也 華落而實不實 則木枯  
一 故君子必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用  
一 德者本也 財者末也 外本而末 則民散而國亡  
一 夫君子之德 華也 木之實也 華落而實不實 則木枯  
一 故君子必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用

一 德者本也 財者末也 外本而末 則民散而國亡  
一 夫君子之德 華也 木之實也 華落而實不實 則木枯  
一 故君子必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用  
一 德者本也 財者末也 外本而末 則民散而國亡  
一 夫君子之德 華也 木之實也 華落而實不實 則木枯  
一 故君子必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用  
一 德者本也 財者末也 外本而末 則民散而國亡  
一 夫君子之德 華也 木之實也 華落而實不實 則木枯  
一 故君子必先慎乎德 有德此有人 有人此有土 有土此有財 有財此有用

